

最近の景況について

資料 No. 1

1 県内景気の動向 (平成21年11月5日公表)

○景況天気図 前月 (小雨) 今月 (小雨)



概況

乗用車新車登録台数は、2か月連続で前年水準を上回っている。

一方、大型小売店販売額は13か月連続、新設住宅着工戸数は8か月連続で、それぞれ前年水準を下回っている。また、公共工事請負金額は、4か月ぶりに前年水準を下回った。

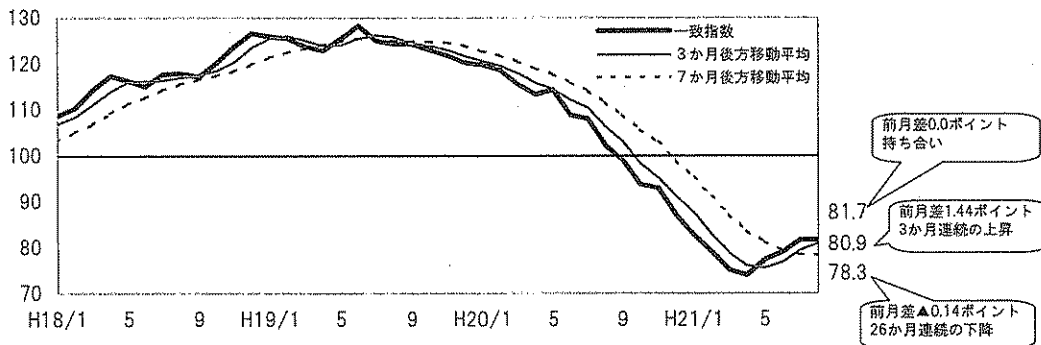
鉱工業生産指数の原指数は、18か月連続で前年水準を下回っており、季節調整済指数は、5か月ぶりに前月水準を下回った。

また、有効求人倍率は、2か月連続で上昇しているものの、依然として低い水準となっている。

このように、県内景気は、下げ止まりの動きもみられるものの、厳しい状況にある。

2 平成21年8月分の景気動向指数 (C I一致指数) (平成21年11月5日公表)

○指数の推移 (平成17年=100)



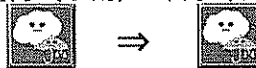
○基調判断

景気動向指数 (C I一致指数) は、「下げ止まり」を示している。

(基調は、月々の値をならした、3か月後方移動平均や7か月後方移動平均を中心に判断している。「局面変化」の基準 (7か月後方移動平均の符号が変化) に該当していないため、前月の「下げ止まり」を踏襲。)

(参考) 国内景気の動向 (内閣府「月例経済報告」：平成21年10月16日公表)

○景況天気図 前月 (小雨) 今月 (小雨)



※天気図は本県で判断したものです。

○我が国経済の基調判断

景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

- ・輸出は、アジア向けを中心に、増加している。生産は、持ち直している。
- ・企業収益は、大幅な減少が続いているが、そのテンポは緩やかになっている。設備投資は、減少している。
- ・雇用情勢は、悪化傾向が続いており、極めて厳しい状況にある。
- ・個人消費は、持ち直しの動きが続いている。

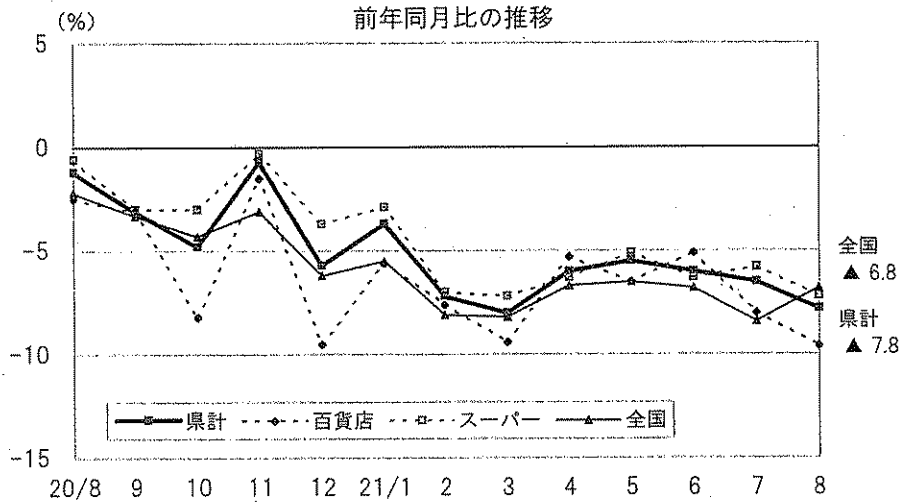
先行きについては、当面、雇用情勢が悪化傾向で推移するものの、海外経済の改善などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。一方、雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ懸念、金融資本市場の変動の影響など、景気を下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

3 主要経済指標の動向

(1) 個人消費

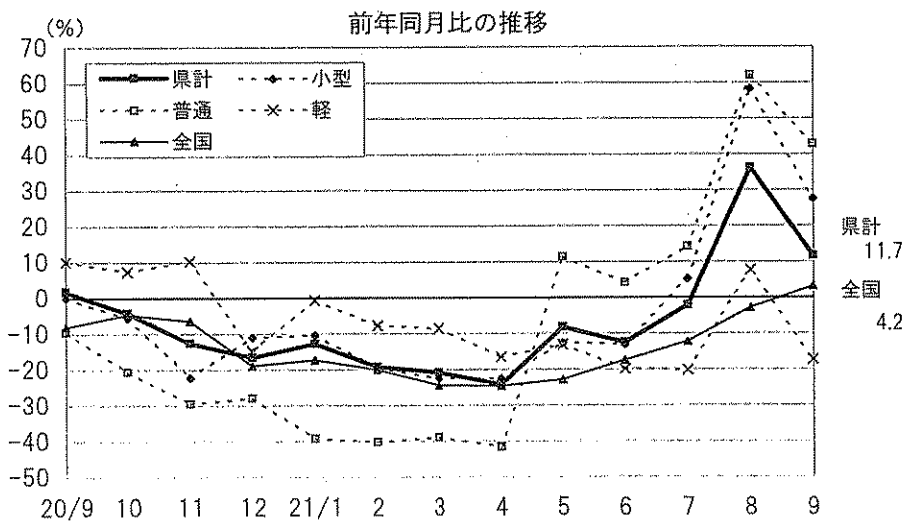
○大型小売店販売額

◇ 8月の大型小売店販売額は前年同月比7.8%減となり、13か月連続で前年水準を下回った。
 ・業態別では、百貨店が9.6%減、スーパーが7.2%減となった。
 ・商品別では、衣料品、身の回り品等の全ての商品が、それぞれ前年水準を下回った。



○乗用車新車登録台数

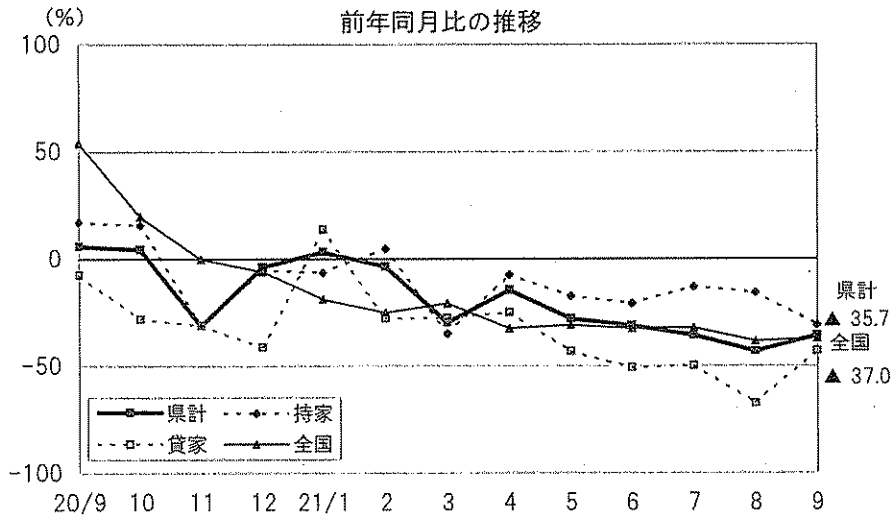
◇ 9月の乗用車新車登録台数は、前年同月比11.7%増となり、2か月連続で前年水準を上回った。
 ・車種別では、普通乗用車が5か月連続、小型四輪が3か月連続で、それぞれ前年水準を上回ったが、軽四輪が2か月ぶりに前年水準を下回った。



(2) 建設投資

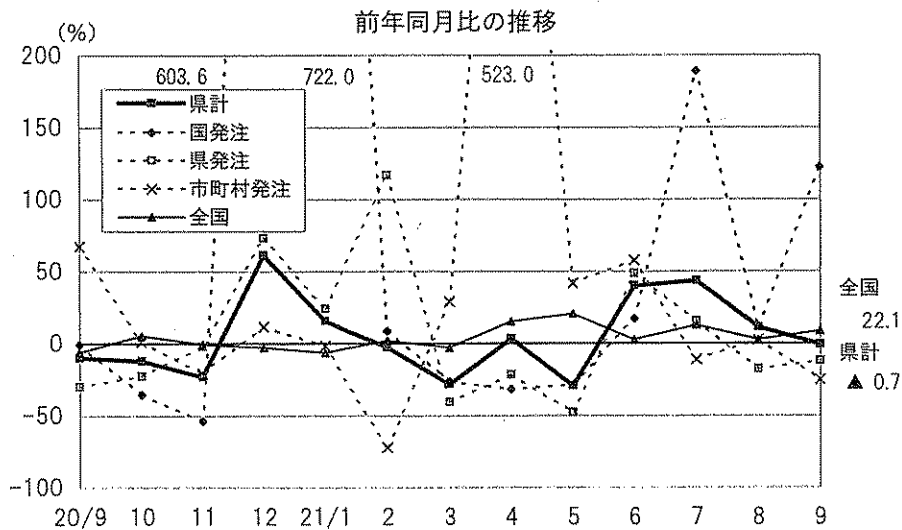
○新設住宅着工戸数

◇ 9月の新設住宅着工戸数は、前年同月比35.7%減となり、8か月連続で前年水準を下回った。
 ・利用関係別では、持家、貸家が、それぞれ前年水準を下回った。



○公共工事請負金額

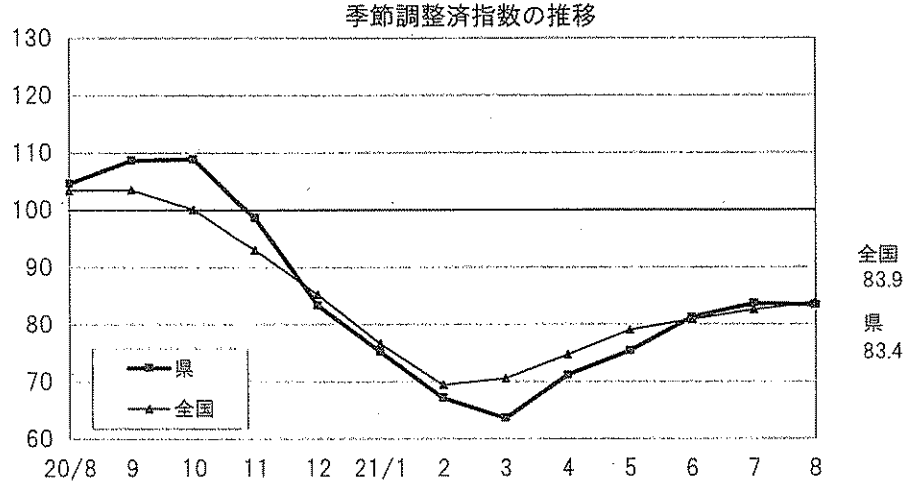
◇ 9月の公共工事請負金額は、前年同月比0.7%減となり、4か月ぶりに前年水準を下回った。



(3) 生産活動

○鉱工業生産指数

◇ 8月の鉱工業生産指数（速報値）は、季節調整済指数が83.4（前月比0.4%減）となり、5か月ぶりに前月水準を下回った。なお、原指数は77.0（前年同月比20.4%減）と18か月連続で前年水準を下回った。



(4) 雇用情勢

○有効求人倍率

◇ 9月の有効求人倍率（季節調整値）は、前月より0.01ポイント上昇し、0.33倍となった。なお、原数値の前年同月比は、0.23ポイント下降し、0.38倍となった。

